

● ● ● 経営情報あれこれ ● ● ●

» » » » » » » » 令和 8 年 9 月 号 « « « « « « « «

★最長の景気拡大★

2026 年 9 月、政府は、現在の日本経済は、いざなみ景気（2002 年 1 月から 2008 年 2 月までの 73 ケ月間）を超え、76 ケ月間、景気拡大中であると発表しました。日経平均株価は最高値を更新していますが、GDP は 1%前後で推移し、物価上昇の中、国民の多くは、景気拡大を実感できない状況です。

今月は、日本における、景気循環について紹介します。

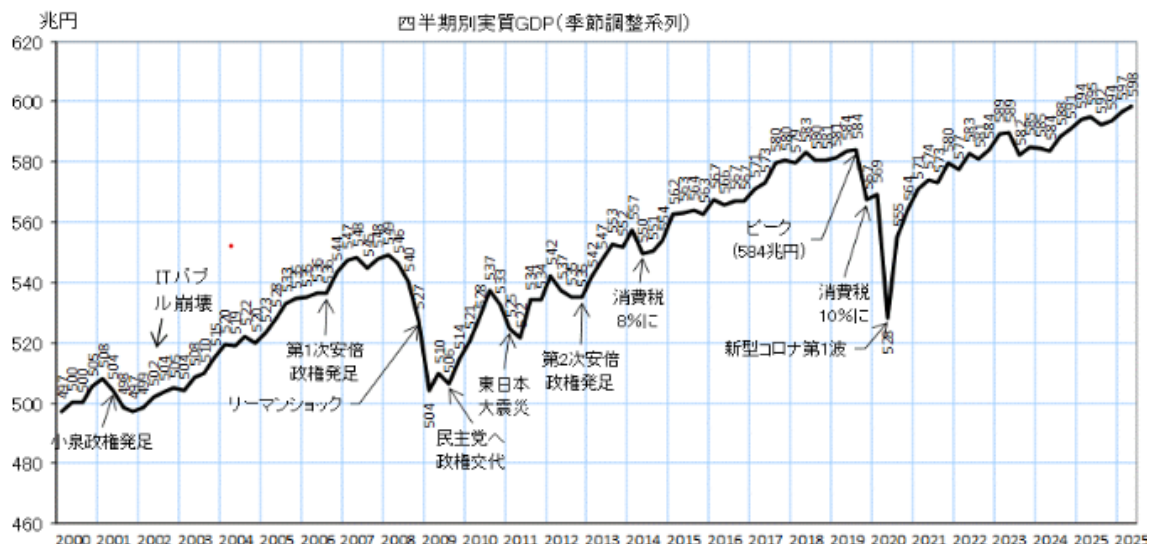
1, 日本の GDP の推移

(1) 過去 25 年間の GDP の推移

過去 25 年間ににおける GDP の推移は、次の表のとおりです。過去、25 年間で、景気の後退・回復を繰り返し、日本経済は約 100 兆円増加しています。

この間、IT バブル崩壊（2001 年）、リーマンショック（2008 年）、東日本大震災（2011 年）、消費税 8%（2014 年）、消費税 10%・コロナ（2020 年）による景気後退と景気回復という景気循環を経験してきました。

実質GDPの推移(四半期)



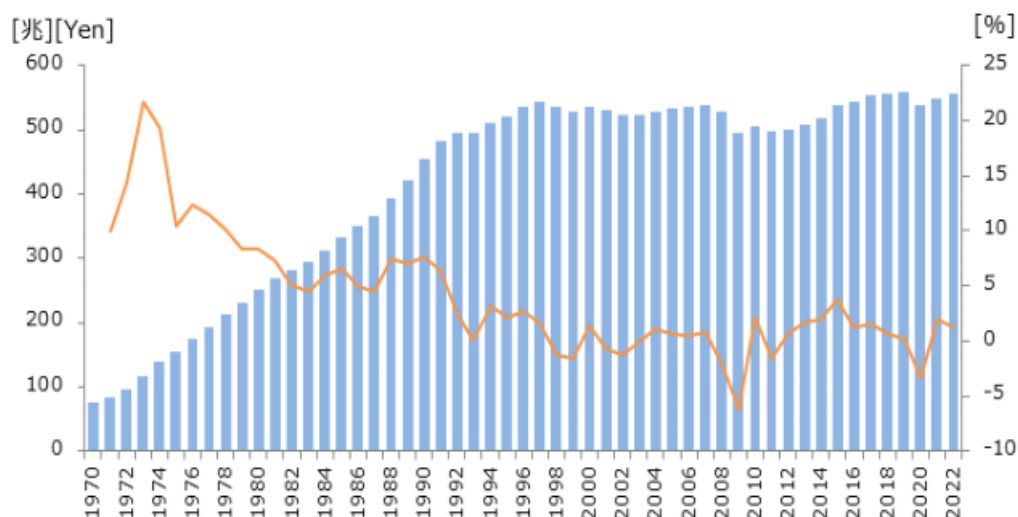
(注) 2011 暦年連鎖価格。年換算。2026 年 4-6 月期 1 次速報値 <2026 年 8 月 17 日公表>

(2) 過去 50 年間の GDP の推移

①円ベースの GDP と経済成長率

次の図は、1970 年から 2022 年までの円ベースの名目 GDP の推移と経済成長率です。1996 年頃まで、GDP は増加しましたが、その後は、ほぼ横ばいの状況であり、経済成長率も 0% 前後で推移しています。

GDP(自国通貨名目)とその成長率の推移



②米ドルベースの日本の GDP の推移及び経済成長率

2012 年（年平均レート約 80 円）以降、円安の進行等により、米ドル円ベースの GDP 及び経済成長率は、減少（下落）しています。特に、2021 年の年間平均ドル円レート 109 円から、2025 年には、年間平均米ドルレート円約 150 円となり、米ドル換算の GDP は、さらに減少しています。この結果、日本の GDP は、ドイツにも抜かれ、世界第 3 位から、第 4 位に後退しています。

2、景気循環

(1) 景気循環の要因

景気循環とは、景気が「好況→後退→不況→回復」と繰り返し変動することです。主な要因は次のとおりです。

①景気が好況から後退する要因

景気の山は、次のような要因で崩壊し、景気後退が始まります（米国の例）

- イ、戦争による軍需の反動（1945 年、1953 年）
- ロ、金融引き締め（政策金利引上げ、インフレ対策）
- ハ、石油ショック（石油価格高騰、1973 年、1979 年、物価上昇）
- ニ、資産バブル崩壊（1991 年バブル崩壊、2001 年 IT バブル崩壊）
- ホ、金融システム崩壊（1991 年バブル崩壊、2007 年リーマン、信用収縮）
- ヘ、外生的なパンデミック（2020 年コロナ）、増税

②景気が回復する要因

景気後退は谷で底を打ち、回復していきませんが、その要因は次のとおりです。

- イ、戦争等の特需（1949 年朝鮮戦争特需）
- ロ、設備投資、輸出増加・消費拡大
- ハ、財政支出増加
- ニ、政策金利の引下げ
- ホ、技術革新（ハイテク景気 1983 年、AI・半導体年）
- ヘ、外国経済の成長（2002 年中国経済投資）

（２）日本の主要な景気循環

戦後、日本における主要な景気循環は、次のとおりです。

景気名	期間	回復要因	後退要因	政策金利	日経平均
神武景気	1954 年 11 月 からの 31 ケ月	設備投資・ 消費・輸出	輸入増加 金融引締	8%台	約 530 円
岩戸景気	1958 年 6 月か らの 42 ケ月	所得倍増政 策・投資	インフレ 金融引締	7%台	約 1400 円
いざなぎ景 気	1965 年 10 月か らの 57 ケ月	輸出・設備 投資・消費	物価上昇 米国金融	6%台	約 2,100 円
バブル景気	1986 年 11 月か ら 1991 年 2 月	低金利・信 用拡大	バブルと 金融引締	4.25%	38,900 円
さざなみ景 気	2002 年 1 月か ら 73 ケ月	中国の成長 輸出拡大	リーマン ショック	0.5%	13,600 円
アベノミク ス景気	2012 年 11 月か らの 71 ケ月	金融緩和・ 財政支出	中国経済 消費税増	マイナス 0.1%	21,900 円
コロナ後 AI 半導体	2020 年 5 月か らの 76 ケ月	コロナ回復 技術革新		1.25%	64,011 円

（注）政策金利及び日経平均株価は、景気の山付近での数値です。また、AI 半導体景気の数値は、2026 年 9 月 11 日の数値です。

（３）現在の景気拡大

現在の景気状況は、物価上昇、賃金上昇、設備投資拡大、株価上昇、金利正常化、円安進行が混在したものです。

今度、紛争による石油価格上昇、経済のブロック化により国際貿易取引の低迷、物価上昇と政策金利引上げ、世界経済の先行き不透明感の増大が予測されます。

★事務所から★

日本では、物価上昇のなか、企業の設備投資・機械受注は堅調に推移していますが、円高の進行、物価上昇、政策金利の上昇が続くと予想されます。今後の経済指標に留意し、適切に対応して下さい。

（公認会計士辻中事務所、税理士法人みらい）。